

不登校からの立ち直り、成長モデルを視野に入れた キャリア教育科目の構想と実践

— 「産業社会と人間」に加え2年次・卒業年次と続く系統的授業の試み —

山崎 茂雄* 国語科

東京都立稔ヶ丘高等学校 学校心理士スーパーバイザー ガイダンスカウンセラー*

都立稔ヶ丘高校では、2007年の開校当初から総合学科高校原則必修科目「産業社会と人間」（1年次）に加えて、2年次に「キャリアデザイン」（2単位）、卒業年次に「キャリアサクセス」（2単位）を置くカリキュラムを採用している。本稿では、この系統的キャリア教育のねらいを、不登校の生徒を受け入れ成長させていく稔ヶ丘高校の生徒育成モデルに位置づけて整理した。

さらに、「キャリアデザイン」「キャリアサクセス」の概要と制作意図、具体的なワークの詳細を解説した。

また、これらの授業を系統的に受講した稔ヶ丘高校5期生の事例を分析し、この取り組みの効果を検討した。進路決定率等では他の年次と比較して特別な成果は上がっていないが、文化祭の合同企画や卒業式の式歌の練習などの事例から、クラス、部、年次単位で仲間意識が高まり、力を発揮しあっていく様子が伺える。1年次「産業社会と人間」の“みんなちがってみんないい”に始まり、2年次「キャリアデザイン」“みんなちがって役割がある”、“みんなちがって高めあう”、そして、卒業年次「キャリアサクセス」の“みんなちがって支えあう”という合言葉で、自他肯定感の醸成をベースに積み重ねた取り組みの一つの成果と考えられる。

最後にこれらの科目の継承・発展の問題を検討した。単に科目だけの問題ではなく、稔ヶ丘高校の生徒育成の課題と今までの取り組みを教職員集団として理解・共有し、その上に立って、さらなる課題解決に向け共同していくにはどうしたらいいかが問われている。そのための模索もまた始まっている。

キーワード：「産業社会と人間」 キャリア教育 総合学科 不登校 自己肯定感

はじめに

東京都立稔ヶ丘高校は、東京都が計画した「チャレンジスクール」5校の最後として、平成19年に開校した。「チャレンジスクール」とは、「今までの教育の中で、自己の能力や適性を生かしていない生徒など」（都立高校長期構想懇談会 1997）を対象に都が計画的に設置した「新しいタイプの学校（自分にチャレンジする学校）」である。総合学科・単位制の三部制（昼夜間）定時制高校であり、中学校の調査書や学力検査を入学選抜に用いないことで、不登校などの経験を持つ生徒でも入学できるしくみになっている。

総合学科高校においては、キャリア教育を内容とする「産業社会と人間」を入学年次に履修することが適切とされている（平成5年文部省初等中等教育局長通知「総合学科について」）。そこ

で、チャレンジスクールにおいてはいずれも「産業社会と人間」を1年次においているが、稔ヶ丘高校では、さらに2年次に「キャリアデザイン」(2単位)、卒業年次に「キャリアサクセス」(2単位)というキャリア関連の学校設定科目を設置し、全員が履修することとしている。

筆者は、山崎(2012)において「産業社会と人間」の概要と制作意図、具体的なワークの詳細を述べ、生徒の反応やアンケート結果からその成果を考察した。その中で、「今後の課題」として、稔ヶ丘高校の系統的キャリア教育科目においては「生徒の成長モデルを想定し、それに即したアプローチを考える」ことが必要と指摘した。その後筆者は、同僚諸氏の協力を得ながら「キャリアデザイン」と「キャリアサクセス」の改訂整備を進めた。

本稿では、稔ヶ丘高校の生徒の成長モデルを念頭に構想し、実践してきたこれら2つの科目の制作意図と概要、具体的なワークの工夫について述べる。また、ケーススタディとして、1年次から3年次まで改訂新版プログラムを初めて通しで受講した第5期生の事例を紹介し、その成果を検討する。

I 本稿の目的

大きく次の2点が、本稿の執筆動機である

(1) 本校教職員にキャリア科目の制作意図を正しく伝える

校内研究紀要の論文であることを念頭に、稔ヶ丘高校教職員を第一読者とし、本校の系統的キャリア教育科目の内容を整理し、そのねらいをわかりやすく説明することを目的とする。

科目の内容は固定化されるべきものではなく、生徒の実態や教職員の創意工夫によってよりよい形に変わっていくべきものである。そのためにこそ、これらのプログラムが解決しようとした課題や具体的ワークの制作意図、授業実施上の留意点などを正しく記録しておく必要があると考える。

(2) 本校と類似した課題を持つ他の学校に役立てる

東京都はもとより全国各地において、教育改革、高校改編の波を受けてさまざまな新しいタイプの学校が創設されている。それらの現場で、稔ヶ丘高校と似た課題を持ち、その解決のために腐心し、創意工夫しようとする先生方の実践のために役立つヒントを提供したい。

そのためにも、稔ヶ丘高校の現場でどのような問題意識を持ち、どんな工夫をしたか、具体的に記しておきたい。

II 稔ヶ丘高校における系統的キャリア教育の意義

1) 他チャレンジスクールとの比較

キャリア教育を目的とした科目の設置状況について、他のチャレンジスクールと稔ヶ丘高校の比較を表1に示す。資料は各学校の公式ホームページによる。個別に学校関係者に問い合わせ確認したところもある。

総合学科の1年次で履修することが原則とされている「産業社会と人間」以外の科目を2年次以降必修(必登録)の形で置いている学校は、稔ヶ丘高校以外にはない。ただし、六本木高校では、ホームルームの前に「産業社会と人間」1単位を置き、1～3年まで履修させている。これはホームルームと合わせて2時間とし多用途に活用しているという。こうしてみると、稔ヶ丘高校のように系統的にキャリア教育の科目を置いているは、稀な例である。

また、「産業社会と人間」は“原則必修”なので、科目登録は義務づけられているが、履

修できなかった場合に、再履修の義務を負わせてはいないと考えられる。しかし、稔ヶ丘高校の「キャリアサクセス」は、「総合的な学習の時間」の位置づけであり、これを履修しないと卒業できない。稔ヶ丘高校では、そこまでこれらの系統的キャリア教育が重視されているのである。それはなぜなのかを考えてみたい。

2) 稔ヶ丘高校における系統的キャリア教育の意義

都立稔ヶ丘高校の開校に先立つこと2年前、平成17(2005)年4月に都立四谷商業高校内に「中野地区チャレンジスクール開設準備室」が置かれ、新設高校の基本構想を練り、開校までのさまざまな準備業務を行った。坂井秀敏校長(現都立小平高校校長)、笹のぶえ主幹教諭(現都立三田高校校長)らがその難題に取り組んだ。

彼らは、今までのチャレンジスクールで適応しにくかった内向的なタイプの不登校生を入学させることをねらいとして定めた。そこで、校服(制服)を制定して、身だしなみ指導を厳しくすると決め、募集段階でもそれを広く宣伝した。学習面でも、単位制だからと科目登録の自由度を広げるのではなく、学習の順序性(科目の積み重ね)を重視して、全員が1年次で国数英を学ぶしくみをつくった。さらに、学習スキルと人間関係スキルを学ぶ「コーピング」や系統的キャリア教育の構想を立てた。

学習スキルも人間関係スキルも、環境さえ整えておけば、生徒たちが自然になんとなく身につけていくものだというのが従来の考え方だが、不登校生徒のためにそれらのスキルを意図的に教えようと考えた。そこで、「なんとなくを意図的に」という教員側の合言葉が掲げられた。その間の経緯は、嶋田他(2011)の第一章に坂井元校長が生き生きと描いている。

それまでのチャレンジスクール4校では、生徒を縛る拘束をはずし、自由な環境を保証することで不登校からの立ち直り、成長を図ろうとしたと考えられる。それに対して、稔ヶ丘高校の開設準備室では、生徒の成長ステップを考え、足りないものを補いながら手をかけて育てていこうという発想があった。「産業社会と人間」に続くキャリア教育科目を年次進行で置いたのも、同じコンセプトに基づくと考えられる。

3) 稔ヶ丘高校の育成モデルとキャリア関連科目の意味づけ

こうした開設準備室の努力のあとに、筆者ら最初の教職員約20名が赴任し、都立稔ヶ丘高校の開校を迎えた。筆者は1年次担任として生徒たちと関わりながら、コーピング(山崎 2011、2014)の授業づくりを進めた。その後「産業社会と人間」の改訂も行なった。筆者はそれらの仕事に使命感を持ち意欲的に取り組んだが、それは、生徒の成長の道筋を考え、手をかけて育てていくという、開設準備室が描いた基本理念に共感できたからである。

筆者が「産業社会と人間」の改訂に着手した経緯については、山崎(2012)に述べたのでくり返さない。その改訂を任された時点で、それに続くキャリアデザイン、キャリアサクセスの改訂に取り組み、同時に、その背後にある稔ヶ丘高校の育成ビジョンを明確にしていかなければならないと考えていた。

表1 キャリア教育科目の設置状況
チャレンジスクール5校の比較

○桐ヶ丘高校 産業社会と人間(2)原則必履修
○世田谷泉高校 産業社会と人間(2)必登録
○大江戸高校 産業社会と人間(2)必登録
○六本木高校 産業社会と人間(3)必登録 1～3年各年次1単位 キャリアサクセス(2)選択
◎稔ヶ丘高校 産業社会と人間(2)必登録 キャリアデザイン(2)必登録 キャリアサクセス(2)必履修

新版「産業社会と人間」を制作・実施したのは、平成 22 年度（4 期生）であった。そのまま年次進行でキャリア科目を順次改訂していく構想であったが、翌、平成 23（2011）年、主幹教諭に昇任し 1 年次主任となったため、計画は 1 年遅れとなった。したがって、新版「産業社会と人間」に続き、本稿で述べる新版キャリアデザイン、キャリアサクセスを卒業まですべて学んだのは、私が年次主任をした平成 23 年度入学生（5 期生）が初めてとなる。

そうして 5 期生を年次進行で見えていく中で、本校生徒の成長ステップ、発達課題を考え続けた。また、校内研修会や管理職・主幹教諭の会議で先生方と議論を重ねた。その結果、現時点でまとまった生徒の成長イメージと、キャリア科目との関連性を図 1 に示す。

ここで使われている「安心安全な学校」「自立した未来」ということばは、第 2 代校長である徳田安伸校長（現園芸高校校長）の発案であり、こうしたモデルの深化には、徳田元校長との議論や共同作業によるところも大きい。

山崎（2012）において、「みんなちがってみんないい」という「産業社会と人間」の合言葉を示したが、同様にデザイン、サクセスでも課題に応じた合言葉を掲げている。これらに共通するのは、「仲間の中で成長する」というイメージである。

ちなみに、その理想は、笹のぶえ主幹教諭が作詞した「稔ヶ丘高校校歌」の中にも、見事に謳い込まれているのがわかる。（表 2 下線部）

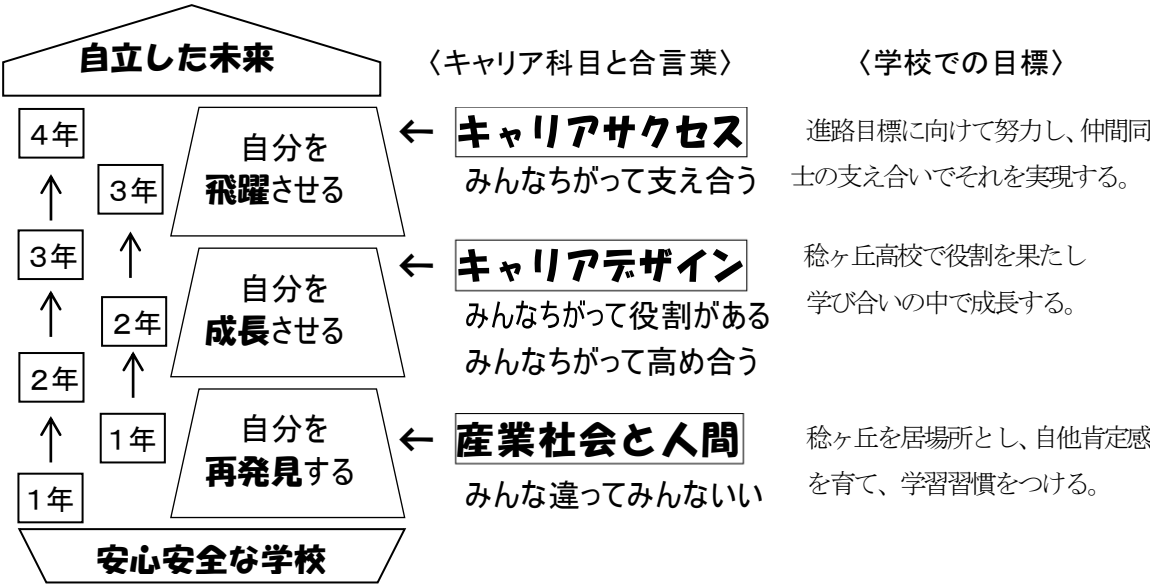


図 1 稔ヶ丘生の成長ステップとキャリア科目のアプローチ

表 2 稔ヶ丘高校校歌

作詞 笹のぶえ 作曲 はたけ

①朝日の中に 清々し 霜に負けぬ 麦の芽の <u>新たなる 私を見つけ</u> <u>仲間を思い 共に学び</u> 勁い心を支えよう 稔ヶ丘高校	②午後の日差しも 柔らかに 風にそよぐ 麦の浪 <u>自立する 力を鍛え</u> <u>知恵遅しく 心健やかに</u> 勁い心を育もう 稔ヶ丘高校	③星の光を 仰ぎ見て 豊かに実る 麦の秋 <u>胸を張り 自信を掴み</u> <u>果たせる役目 身にまとい</u> 勁い心を培おう 稔ヶ丘高校
--	---	--

4) 授業の実際

山崎（2012）において、次のような授業の実際について報告したが、キャリアデザイン、キャリアサクセスにおいても基本は変わらない。

- （1）授業は担任がホームルーム単位で実施する。1年次は1クラス 15名だが、2年次はクラスを再編して22～3名になる。3年次のクラス人数は30名（都の定時制高校クラス定員）となるが、キャリアサクセスの授業はその年に卒業を予定する生徒だけが登録できるので、15～20名の授業クラスとなる（定時制である稔ヶ丘高校は原則4年で卒業だが、単位制のため他の部の授業を履修して単位数を満たせば、3年でも卒業できる。実際、毎年ほぼ半数の生徒が3年で卒業する）。
- （2）授業はワークシートに沿って進める。生徒はワークシート類を専用のファイルに綴じるので、いわゆるポートフォリオ評価で、出席状況をベースに、授業中の取組みと成果物によって成績評価が行われる。
- （3）教員用には授業展開案があるが、全員で授業の打ち合わせをする「授業会」が毎週持たれる。授業会主催の教員が展開案を説明し、実演や質疑によって理解を深める。授業会の存在によって、授業内容が継承され、質が保障されている。ちなみに筆者が授業会を主宰したのは各科目を改訂年度のみで、翌年以降は別の担当者が授業会を主宰し、筆者とは独立に運営がなされている。
- （4）制作上の工夫として、A4縦のワークシートに順に授業内容を分けて制作してあるので、それを1枚ずつ配布することで、授業展開をコントロールできる。それにより生徒たちは、問題意識を喚起され、主体的に考え、期待感を持って学習のステップを踏んでいけるしかけになっている。
- （5）説明をビジュアル化し、展開のブレを少なくするために、黒板に掲示するシートを多く開発し、それをラミネート加工してマグネットをつけ、長年使用できるようにしてある。それを使った授業の様子は、写真1・2に見ることができる。

Ⅲ. キャリアデザイン（2年次）の内容

1. 科目のねらい

- （1）進路意識を高め、目標を持ち、高校生活を充実させることで、成長を図る。
- （2）自分を見つめたり協力して学習を進めたりする中で、自身の個性と役割を考える。
合言葉「みんなちがって役割がある」
- （3）協同学習の中で啓発され、学習や活動への意欲を高める。
合言葉「みんなちがって高めあう」

2. 各単元の学習活動

各単元において、科目のねらいに直結した特徴的な単元・回を中心に紹介する。

1) 自他発見

（1）自他発見① 年間の学習内容を理解し、自分はどうするか考えよう

年間の授業ガイダンスとなる回である。進路や学習について各自が持つ悩みや問題意識を

掘り起こす質問に答えた後、「図解キャリアデザインの構成」(図2)に沿って、年間の学習の全体像を理解する。ここには、後で展開される「Will、Can、Must の考え方」と2つの合言葉「みんなちがって役割がある」「みんなちがって高めあう」が示されている。

学習活動としては、このあと、各自、自分の名前を大きく書いた付箋を、黒板に貼った拡大図解の学びたい内容の箇所に貼りに行く。それを眺めて仲間同士で問題意識を共有し、啓発し合ったのち、各自の考えを書く。

(2) 自他発見② 進路を実現した先輩たちの姿から学ぼう(「進路の手引き」活用)

「進路の手引き」(キャリア教育部編集A4版冊子)に載った前年度卒業生の合格体験記から、進路活動の努力や工夫を学び、各自の進路活動のイメージを持つことをねらいとする。

体験記は、それぞれに進路を切り開いた先輩が、進路実現のためにした準備や苦勞した体験、後輩へのメッセージなどをまとめたもので、大学短大、専門学校、就職の各進路や受験方法などのバランスも考え、20名程度が掲載されている。その中から、自分が手本としたい卒業生を1人選び、要点をワークシートにまとめる。

後半はグループとなり、一人の卒業生を決めて、その名前や進路先を大判の紙に大書する。その紙を掲げてメンバー全員で教壇に立ち、その卒業生の進路活動の概要を代表者が発表する。その後、メンバーひとりひとりが、自分の感じたその先輩のアピールポイント(すごいところ、学びたいところ)を発表する。

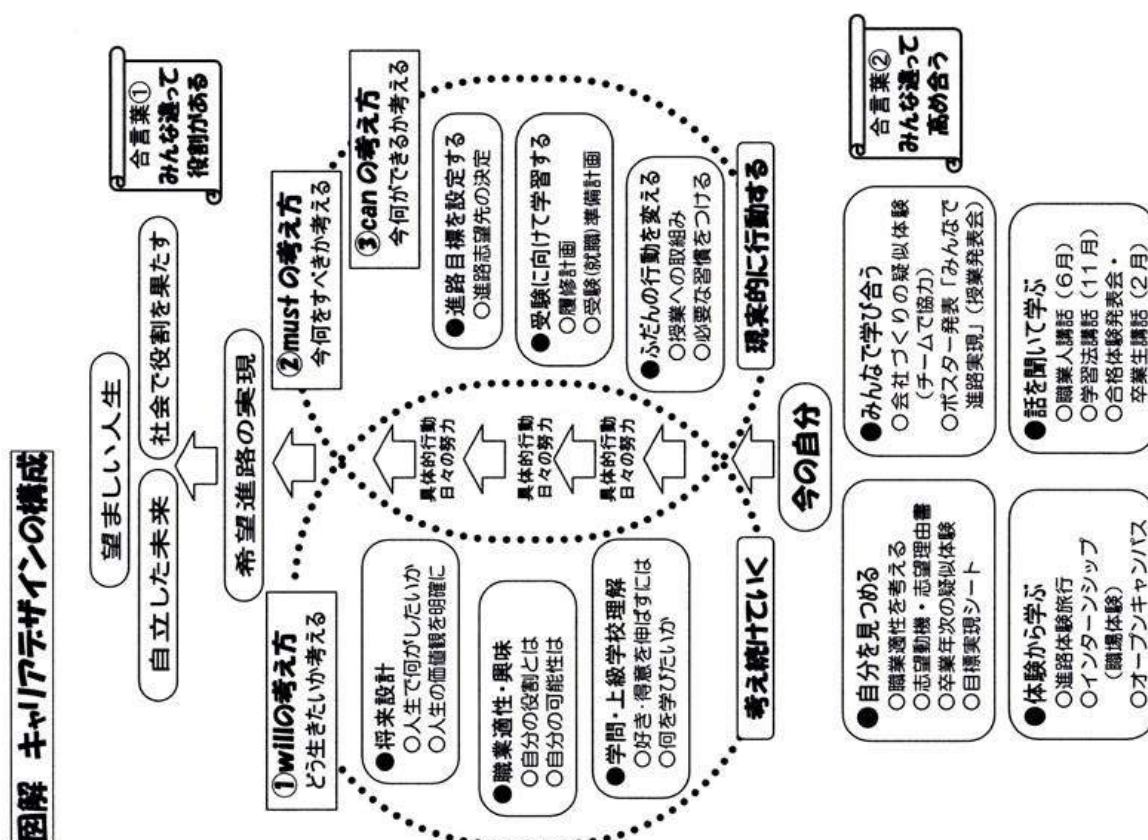


図2 図解 キャリアデザインの構成 (生徒用ワークシート)

表3 平成 24 年度 キャリアデザイン 年間授業計画(2年次 2単位)

回	実施月日	単元	タイトル 内容
1	4 月 27 日		職業レディネステスト実施
2	5 月 11 日	自他発見①	年間の学習内容を理解し、自分は何をやるか考えよう
3	5 月 18 日		基礎力診断テスト結果返却 ベネッセ講師による説明
4	5 月 25 日	自他発見②	先輩たちの姿から学ぼう(進路の手引き活用)
5	6 月 1 日	自他発見③	Will、Can、Must の考え方で、今を充実させよう
6	6 月 8 日	自他発見④	卒業年次の進路活動を疑似体験してみよう
7	6 月 22 日	職業理解①	職業人講話 講師 松井大助さん(フリーライター)
8	6 月 29 日	職業理解②	適性を活かして働くイメージを持とう
9	7 月 6 日	職業理解③	会社で働くとはどういうことか考えてみよう(グループワーク)
10	7 月 13 日	上級学校理解①	進学サイトの使い方をマスターしよう(オープンキャンパス情報)
11	9 月 28 日	進路体験旅行①	進路体験旅行事前学習(大阪・商人体験をイメージしよう)
12	10 月 5 日	進路体験旅行②	進路体験旅行事前学習(USJのクレーンから学ぶ)
13	10 月 19 日	進路体験旅行③	進路体験旅行事前学習(全体験学習のおさらい)
	11 月 2 日	履修登録	履修登録をきっかけに進路を明確にし、学習習慣をつけよう
	11 月 9 日	履修登録	各教科からの説明
	11 月 16 日	履修登録	各教科からの説明
14	11 月 30 日	学習意欲①	学習法講話 講師 池末翔太さん(明治大学)
15	12 月 7 日	学習意欲②	前回の講話を受けて進路を考える 目標実現シート
16	12 月 14 日	志望動機①	志望動機を考え、みんなで深めよう
17	12 月 21 日	志望動機②	志望理由書を書いて考えを明確化しよう
18	1 月 11 日	みんなで進路①	チームを作り、問題意識を深めよう
19	1 月 18 日	みんなで進路②	チームでポスターのアウトラインを作ろう
20	1 月 25 日	みんなで進路③	チームでポスターを完成しよう
21	2 月 1 日	みんなで進路④	チームでポスターを鑑賞しよう
22	2 月 8 日	まとめ／自他発見	お互いの成長をふり振り返り、分かち合おう
23	2 月 15 日	合格体験発表会	先輩の体験を聞く

(3) 自他発見③ Will、Can、Must の考え方で今を充実させよう

「Will、Can、Must の考え方」は、大学生のキャリア教育や就職活動指導においてしばしば使われるようである。その場合、したいこと (Will)、できること (Can)、しなければならぬこと (Must) のバランスをとることを、会社選びの視点として考えさせるという。

しかし、ここでは、生徒たちが将来や進路への意識を持ち、なおかつ今できることやすべきことを大切にして、日々の高校生活を充実させられるように独自の解釈で用いる。

「Will の考え方」では、将来の夢を考え、仮でいいから目標を持つことが今を充実させる

ことにつながり、あとで目標が変わったとしてもそれを実現する力になることを伝える。

「Can の考え方」では、将来の目標があいまいでも今できることをすることの大切さに気付かせる。そのために、①既に持っているリソース（資源）は何か、②自分を成長させるためにできることは何か、という2つ視点で考えさせる。

「Must の考え方」では、日常の中で「しなければならないこと」を書き出し、「～しよう」と言い換えることで、義務感を積極的意欲に転換していく練習をさせる。

（４）自他発見④ 卒業年次の進路活動を疑似体験してみよう

各自が想定する進路（大学一般受験、大学短大推薦・ＡＯ、専門学校、就職）に合わせて、卒業年次の進路活動の流れを理解し、１年間を４期に分けた枠組みごとに、その時（１年後か２年後）の自分の活動と気持ちを想像して書いてみる。さらにそのシートを匿名で回し、時期ごとに一人ずつ励ましのメッセージを書く。書く方も書かれる方も匿名だが、自分のイメージの中の進路活動について、４人のクラスメートからのメッセージが書かれたシートが最後の自分の手元に戻ってくる。進路活動の現実とは厳しく、つらいことも想像されるが、それを仲間を支えられて乗り越えていくというイメージが持てるよう、工夫したワークである。

なお、平成 26 年（7 期生）版では、生徒の進路意識を啓発するためのよりよいタイミングを考え、この回を 12 月実施に改訂している。

2）職業理解

（１）職業理解① 職業人講話 講師松井大助氏（フリーライター）

松井大助氏は、キャリア教育の分野を中心に執筆活動をしているライターで、多くの職業人インタビューの経験を持つ。松井氏はまず生徒たちに、「働く意味」をどう考えるか、グループでブレインストーミングさせた。その結果も引用しながら、松井氏の出会った職業人た

卒業年次 進路活動シミュレーション		進路希望（受験方法）専門学校☆		
時期区分	年 月 卒業年度	進路活動 進路活動早見表から写そう。 『進路の手引き』から 情報を補足してよい	自分の行動と気持ち ①行動 どんな状況で、どう行動しているか？ 「～だろう」ではなく、なり切った現在形・過去形で書く ②気持ち 期待、不安、迷い、やる気…	（自分では書かない。仲間が書いてくれる欄） 仲間からのメッセージ 共感＋励まし
第1期 志望決定	2014年 4月 ～ 6月	・情報収集 ・志望学科を決定	・図書館やインターネットを利用して 色々な学校の情報収集して ・自分に合った学校がまだ不安	この時期にはまだ時間ばかりで、 自分なってる。進路を決めてね。 あせることない。
第2期 基礎的努力	2014年 6月 ～ 8月	・志望校候補の見直し ・志望校決定 ・志望の明確化	・学校を見学しに行っている ・色々な学校を見比べて悩む(笑)	色々な学校がある。迷いがもしあれば 焦らずじっくり決めな!! 悩む事は大事
第3期 チャレンジ	2014年 9月 ～ 10月	・志望理由書 ・小論文・面接対策 ・試験(小論文・面接)	・小論文や面接の対策をしている ・試験の事ばかり考えて 受かると不安が積み重な	小論文や面接は大変だと思うけど 頑張れ!! 自分をいかにアピールしようか がポイント。
第4期 合格 その後	2014年 11月 ～ 3月	・合格・進学先決定 ・進学への準備	・志望校合格! ・新しい生活を想像してワクワク	おめでとうございませう!! 新しい生活を想像すると、 ワクワクしますね。～!! 専門学校でも、楽しみながら 学びましょう!!

図3 卒業年次の進路活動疑似体験 ワークシートの例

ちの事例から、12タイプの「働く意味」を語った。好きなことを仕事にするばかりでなく、何かをつくることの喜び、困った人の力になれる手応えや、みんなの暮らしを支える誇りなどのほか、家族や趣味のためにお金を稼ぐ充実感も、働く喜びとして示されていた。

また、講話の後半では、働く人の「学びのスタイル」と題して、知的能力を発揮する際の感覚的好みや得意能力の諸相についても考えさせ、独自の整理を示した。

【生徒の感想から】私は、「働くのはお金のため」と思い生きてきましたが、今回の授業を受けて、少しその考えが変わる気がしました。働くことで得るものはお金だけでなく、経験やいろいろな能力など、個々によって違うものなのだと思います。（女子）

（2）職業理解② 「職業レディネステスト」結果を活用して、働くイメージを持とう

4月当初に受検した「職業レディネステスト」の結果シートを活用する回である。同テストでは、職業の6領域と3つの志向性（図4）で個人の適性を見ていく。自分の職業適性から具体的な職業を選び、自分が働いている様子をイメージして書くワークに取り組む。

後半は、その結果を共有するため、一人一人が自分の職業適性を発表するミニプレゼンを行った。準備として、自分の適性ある職業リストの中から興味のあるものを1つ選んで、A4紙にフェルトペンで大書しておく。一人ずつ前に出て、まず、黒板に貼ってある6領域と3志向のラミネートシート（裏マグネット・担任が説明に使用）のうちから、自分の適性のある領域・志向のシートを取って貼り説明する。3番目に、自分の興味ある職業を書いた紙を貼り、感想を述べる（図5参照）。

職業理解の学習であると同時に、生徒同士の相互交流を深め、スモールステップでスピーチやプレゼンテーションの経験を積ませていくしかけでもある。

独立行政法人 労働政策研究・研修機構編 ホランド理論に基づく6つの興味領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的、）に対する興味の程度と自信度がプロフィールで表示。基礎的志向性（対情報、対人、対物）も測定。



図4 職業の6領域と3つの指向性

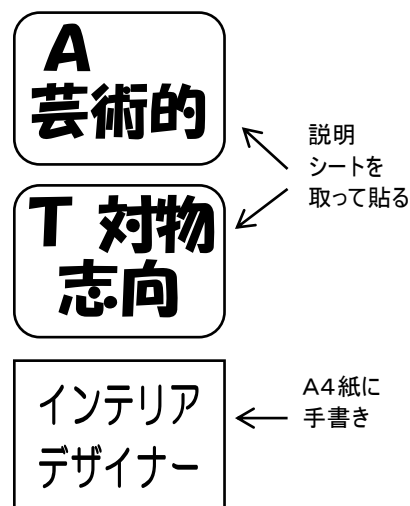


図5 職業適性のスピーチ

(3) 職業理解③ 会社で働くとはどういうことか考えてみよう

前2回のワークで働くことへの問題意識が高まったところで、グループでのシミュレーションゲーム的な活動で、「会社(組織)で働くこと」の意味を実感してもらう回である。

表に示す4つの会社と6つの職種が示されるので、生徒は大判付箋の表に名前、裏に希望する会社名・職種を書いて提出する。担任はその付箋を黒板の各職種のところに貼る。希望者1人の職種は「採用」となり、複数の場合は、じゃんけんで決める。負けた生徒は他の空いている職種に移る、という形で全員の「就職先」が決まる。

会社ごとに集まってグループ作業に入る。社員名簿にメンバーの名前を書き、欠員の職種には、「どんな人材がほしいか」を書き込んでおく。社内会議で会社の目的を話し合い、会社名を決める。そのあとは、各自、その会社で自分が果たすべき役割や働きがいを考えて書く。

後半はプレゼンの時間となり、会社ごとにグループで教壇に立ち、会社の名前と目的を発表する。そして一人一人が自分の職務内容と働きがいを発表する。

【生徒の感想から】それぞれの会社の中の役割分担の大切さがわかった。それぞれが自分の得意としていることをして、その会社の役に立つのは、会社がそれぞれ役割を果たし社会を作っているのと似ていると思った。(男子)

2012/7/6 キャリアデザインⅡ Ⅱ 第2年 組 番氏名 No.2

提出用ワークシート

決まった職種と職種を書いておこう。

職種 スーパーマーケット	自分の 事務・経理
--------------	-----------

ワーク2 (記入欄) 社内会議で考えよう

1) 社員名簿 ※空席の職種には「どんな人材がほしいか」みんなで相談し、条件を書く

職種	名前	職種	名前
①事務・経理		④販売接客	
②在庫管理		⑤営業(対客)	
③食品加工		⑥宣伝(チラシ)	

2) 会社の目的と会社名

①自分は世の中のどんな役に立っているのか。話し合いの過程をメモし、決まった「目的」に下線を引く。

②会社の目的 女子高生は上品な接客を目標とします。女子高生に合った、女子のためのスーパーマーケットです。日用品を売って折り返し、美容コーナーを設けます。(スバ、ネイル、エステ、カラーリング)

③会社名 MINORI・ガールズ ④ 一会社の目的にふさわしい社名を話し合っておく

ワーク3 自分の役割と働きがい ※先生の指示があってから取り組む

① 会社の目的のために、自分の職種では何をすべきか(must)、できるか(can)、したいか(will)、具体的に考えて書いてみよう。

② この会社での自分の働きがいは何か、考えて書いてみよう。

1. ガールズの中で売れた商品を、とはちゅう(たり)に、並べ売れなかったは、ちゅうを少くした。全体の管理をする。クレーマの対応をする。
2. 基本的に事務所にいるが、お客さんが多く大変な時は、お店に出て対応をする。お客の管理をしっかりと大まかに、真面目に頑張る。
3. お客様のようほかに答えるために、アンケート作り、AIアンケートを、こまめにしたい。ようほかに、は、各リーダーに、出せし、

感想 「会社で働くこと」について、気づいたことはありましたか ※クラス全体の発表会後に記入する
 といえ、成長が楽しかったです。話すのも、聞くのもです。今回、初めて、事務・経理について知りました。そして、この会社で、この仕事で、この職種が、自分だ、と思いました。クレーマの対応は、さる思っている以上に、きついです。お金の管理も、本当、こまめに、さる思っている以上に、きついです。ありがとうございました。このシートのみ提出です。

図6 会社づくり作業例



写真1 会社づくりの説明

(Ⅲ部担任 吉田英文教諭)



写真2 会社づくりチーム作業の様子

3) 上級学校理解

(1) 上級学校理解① 進学サイトの使い方をマスターしよう

7月にパソコン教室で実施した。

3つの主要な進学サイトを用いて「適職・適学診断」をしてみたのち、夏休みのオープンキャンパスの日程を中心に情報収集をした。進学サイトの使い方に慣れ、必要な時にはこれらのサイトを使って情報検索ができるようにすることもねらいであった。

4) 履修登録／学習意欲

(1) 履修登録① 進路を考えた履修登録

単位制である稔ヶ丘高校では、毎年11月に、次年度の履修登録を行い、各自の時間割を作成する。そのために教務部や各教科からの説明、時間割づくりの個別指導などのスケジュールが組み、キャリアデザインの時間もそのために当てられる。

そこで、その第1時間目を「進路を考えた履修登録」に充て、次の点を強調した。

- ①「進路意識二次元スケール」(図7)で自分の現在の状態を自己理解させた。履修登録

をきっかけに進路目標を明確にし、学習習慣をつける方向へ、少しでも前進できるようにすることを求めた。

- ②進路タイプ別履修モデルを示し、科目選択の指針とした。とくに大学進学を安易に考えないよう、英語の成績を判断の目安として明確に示した。

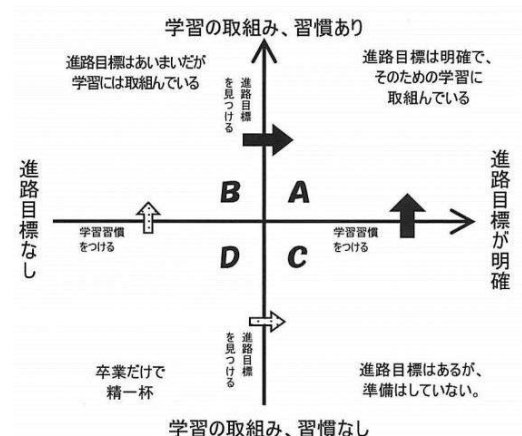


図7 進路意識二次元スケール

(2) 学習意欲① 学習スキル講話 池末翔太氏

池末氏は、勉強などの悩みに答えるブログ「中学生・高校生のあるある研究所」を大学時代から開設し、書籍として刊行した(池末・野中 2011)。その後も予備校講師をしながら中高生の目線で学習スキルや学習意欲についての著書を出し続けている(池末 2012、2014)。自分自身のそうした体験をふまえて、「ぶっとんだ夢」を描きそのイメージ(未来記憶)を持つことで、モチベーションが持続し、夢が実現していくという考えを語ってくれた。そして、未来記憶をつくるための問い「制限がなければどんな未来にしたい？」を教え、ペアで語り合うという実習をしてくれた。

【生徒の感想 講師へのメッセージカードから】 この度は貴重なお話を聞かせていただき、ありがとうございました。私は中学生のときに不登校になりましたが、「もう一度、人と関わりたい」という気持ちを胸にがんばってきました。今はもう平気です。思えば、それが私の「未来記憶」だったのかもしれません。来年度で3年生になり、自分の未来を選択する重要な局面を迎えます。今日聞かせていただいたお話を意識して、「明るい未来」へ向かいたいです。(女子)

(3) 学習意欲② 進路実現計画 いよいよ本気で進路を考えよう

前回の池末氏の講話を受けて、「制限がなければ」という思考法を自分の進路に当てはめて考える回とした。現在の成績や経済的制約を外して、自分の心からの進路希望を自由に考え、そこから現実を見直してみる。そうして自分がほんとうに楽しみにできる進路目標を見つける。個人作業ののち、グループで互いの感想や気づきを順番に語る。聞き手は共感的に聴くことを徹底した。再び個人作業に戻り、1年次（「産業社会と人間」自他発見④）で初めて使い、2年次の初め（自他発見③）でも用いた「目標実現シート」目標を落とし込んだ。

【生徒の感想から】今日の学習では、自分の進路と将来について見つめ直すことができました。本当に自分の将来はこれでいいのか？っていうことを考えていて、やっぱりこの将来がいいとか、この将来は叶えなくていいやつだなとか、本当にやりたいことが見つけれられた。このワークのように行動計画を続けていけたらいいなと思いました。今日の勉強は自分の役に立った。

5) 志望動機

(1) 志望動機① 志望動機を考え、みんなで深めよう

前回までの学習を受けて、進路希望が明確になってきた生徒も、そうでない生徒も、仮想でいいので志望先を決め、志望理由書や面接応答の内容を準備してみる。その際、志望動機シート（図8）を活用する。このシートは、面接試験などで聞かれる内容を二次元的に整理し、個々の項目の関係が理解できるように工夫したものである。生徒は書きやすいところから書き込むことで自分の考えを明確化し、書けない欄を見て、自分がさらに考えねばならない課題に気づいていく。

記入日 平成25年 5月 24日(金)

志望動機シート

志望先を知る

志望先 学校名(学校種)・学部・学科・職種)
多摩美術大学・美術学部
環境デザイン学科・環境デザイナー

志望先の特徴 自分の希望と合う点
環境とデザインの関係や景観について学べる。ハ王子にキャンパスがあり静かである。環境デザイン学科の中で3つに分かれ、自分の希望する環境デザインを学べる。ランドスケープについて学べる。
志望が環境系人は自分が志望先にあるものと考えよう

運路先の自分

志望先で学びたいこと、したいこと 環境デザインの基本、デザイン学の基礎を学ぶ。環境デザイン学科は建築・インテリア・ランドスケープと学べる。ランドスケープが第一志望だが、建築やインテリアも学べ、色々な角度からデザインを学べる。

将来の自分

将来の夢、したいこと 将来設計 生き方 環境デザイナー、景観デザイナー、公園のデザイナーになる。自分の設計した公園や公共施設を作る。地域にあった空間や、気持ちよく暮らせる場所を作る。空港に自分でデザインした空間を作る。ランドスケープや、ガラス管を使った施設やそれに関連施設を作る。

自信

高校で学んだこと 成長したこと 努力していること 小学校から中学校まで不登校だったが、高校では登校でき、今は3年生。自信になった。友人ができた。美術の展覧会に作品を提出できた。

個性

(1)興味関心 学びたいこと
(2)生かしたい長所 得意なこと
公園や川、ランドスケープに興味があり、これらを学ぶ環境でデザインに生かしたい。力のあることは、2つ夜で5つないが美術のことに関心は、死ぬまでやめられない。足や、その空間がでるまでの望みに興味がある。

今の自分

その結果得るは...

※このシートは、自分の進路志望動機を深く考えるためのツールです。プレインストレーション感覚で記入し、矢印の関係を考慮して、足りない部分を埋めよう。このシートに記入しながら考えることで、志望動機が明確になっていきます。

図8 志望動機シート(3年次キャリアアクセスでの記入例)

次に、生徒たちはグループになり、相互インタビューで自己理解を深めていく。一人の生徒が志望動機シートの1項目を話し、それに対してメンバーが、「なぜですか?」「具体的に〜?」のいずれかの質問をし、話し手はそれに答えようとする中で、気づきを深めていく。

相互インタビューでの気づきをもとに、さらに志望動機を書き込む作業をする。

(2) 志望動機② 志望理由書を書いて考えを明確化しよう

志望理由書の典型的な形式を、例文を通して理解し、それに沿って、自分の志望理由書を書いていく。前回の「志望動機シート」を参照する。時間内に書き終わらない生徒は宿題で仕上げる。逆に、早く書き終えた生徒はグループになって互いの志望理由書を読みあい、「いいところ探し」で認めあう。

6) みんなで進路実現 (チームでテーマごとポスターづくり)

授業発表会に向けてチームで取組む学習。進路に関するさまざまなテーマを自ら選んで集まり、分担して各チーム1枚のポスターをまとめる。最後の展覧会も含め年度末の4回をあてた。

(1) みんなで進路実現① チームを作り、問題意識を深めよう

人数を確保し、チーム作りのフレキシブルさを保証するため、各部とも2クラス合同(約40名)で実施した。生徒たちは、図9に示すテーマから、自分の取組みたいテーマを選んでチーム(3~6名)をつくる。人数調整ののち、確定したチームで選んだ大テーマの下、小テーマ(問題)を付箋で出し合い、出たものを整理し、執筆分担を決める。他チームと交流し、発想の刺激も受ける。分担した小テーマについて、自宅課題で各自、調べてくる。

2013/1/11 キャリアデザイン18 部 2年 組 番 氏 名

No.2

●「みんなで進路実現」テーマ一覧表

A〜Jが大テーマで、この大テーマでチームを作り、小テーマを考えて分担します。小テーマは、あくまで例です。これを参考にして、自分たちで、「これを知りたい」、「これを解決したい」という問題を出し合っていきます。

1) 進路各別 A. 大学・短大 志望校選び ・納得のいく志望校選びをするには ・納得のいく学部・学科選びをするには ・大学の情報を得るには ・オープンキャンパスで見るべき点 B. 専門学校 志望校選び ・専門学校とは ・専門学校の種類 ・よい専門学校の見分け方 ・専門学校入試のしくみ ・専門学校に合格するには C. 就職の志望をかなえる ・求人票の見方は ・就職筆記試験で高得点を取るには ・就職の面接試験で合格するには ・就職活動のスケジュールは	3) 自分自身の問題 F. 学習習慣 ・自宅学習の習慣をつけるには ・受験勉強を効果的に進めるには ・学習のやる気を維持するには ・勉強は朝型か夜型か G. 生活習慣 ・起床・睡眠の習慣を改善するには ・受験に役立つ生活習慣は ・受験に役立つ食事習慣は ・受験のための整理術 H. 学習法 ・自分に合う勉強法を見つけるには ・自分に合う参考書・問題集を選ぶには ・記憶力を高めるには ・受験に役立つノート術 ・効果的な学習法 ・学習に役立つ機器・サイトなど
2) 入試対策 D. 一般入試で合格するには ・センター試験とは ・私立大一般入試の特徴 ・受験に向けた学習スケジュール(いつまでに何をやればいいか) E. 推薦・AO入試で合格するには ・指定校・公募推薦、AO入試の違いは? ・嵯峨丘の指定校にはどんな大学があるか ・先輩のAOや公募推薦での合格先は? ・面接試験対策はどうしたらいいか ・作文・小論文対策はどうしたらいいか ・志望理由書の書き方	4) その他必要なこと I. 進学費用・奨学金 ・進学費用はどれくらいかかるか ・受験料はどれくらいかかるか ・奨学金にはどんな種類があるか ・奨学金はどうしたらもらえるか ・大学生のアルバイト収入は? J. 情報収集 ・進路情報サイトはどれが使いやすいか ・ガイダンスルームでは、何がわかるか ・図書館で進路について調べるには ・大学案内・募集要項などの取り寄せ方 ・就職情報の収集のしかた

※これらのテーマについて、「進路の手引き」に多くの情報が載っているため、探してみよう。

図9 「みんなで進路実現」テーマリスト

みんなで進路実現③ チームでポスターを完成しよう

各チームでメンバーの考えがまとまり、協力して作業が進み、最終的に人に見せられる作品に仕上げることを考え、試行錯誤の時間として、2回の授業を確保した。一見、だらだらと時間を浪費するように見えるチームもあるが、他チームにも刺激を受けながら、大教室でわいわいやるうちに、次第にまとまっていく。

各部とも合同授業。図 10 に示すように全ポスターを大教室に掲示し、チームメンバーで他チームのポスターを囲んで語り合う。これは、「ギャラリートーク」と呼ばれる手法である（堀 2012）。これを整然と進めるために、一定時間（例えば 4 分）で教師が合図し、チーム単位で隣のポスターの前に移動する。生徒たちは語り合いながら、各自感想をワークシートに書く。

同時にコンペを行うため、各自投票用付箋に名前を書いて2枚ずつ持ち、優れていると思うポスターに貼る。投票の上位作品を授業発表会に展示すると伝えたが、実際にスガ確保できたので、全チームのポスターを展示することができた。

↓ 窓側はカーテンにクリップで止める(四隅)。男子が背伸びして止める高さがちょうどよい。

①ポスターを眺めて
チームでトーク
②教師の合図で
一斉に隣へ移動

→ ホワイトボードの両端に磁石で2枚貼る →

↓ 左右列の机を内側に寄せる ↓

は片付ける 柱の前の机

は片付ける 柱の前の机

40センチ程度

40センチ程度

机を2個縦に並べてポスターを置く

入ロドアに磁石で貼る

前室ドア横の壁に磁石で貼る

図 10 「みんなで進路実現」ポスター鑑賞会 ギャラリートーク

Ⅲ. キャリアサクセス（卒業年次）の内容

1. 科目のねらい

- (1) 進路目標を明確にし、実現のための意欲を高める。
- (2) 進路目標の実現のために、必要な課題を自己理解し、行動目標を明確にする。
- (3) 進路目標の実現のために必要な準備に取組み、行動を継続する。
- (4) 各自進路活動に取り組む姿から学びあい、「仲間ががんばっているから自分も頑張れる」という連帯意識に支えられて、進路活動の意欲を継続させる（「みんなちがって支えあう」）。

2. 各単元の学習活動

1) 目標・計画

(1) 目標・計画① 進路実現に向けて今すべきことを明確にしよう

2年次の履修登録で用いたのとほぼ同じ「進路意識二次元スケール」を用いて、進路実現に向けて自分が今どこにいるか、小さな●を書く。次に、夏休みまでに自分が進みたい位置を色ペンの○で記入する。各自の作業ののち、黒板に大きく書かれたこの座標軸上に、各自名前を書いた付箋を貼りに行く。まず現在の位置にブルーの付箋を貼り、互いの位置を知る。次に夏休みまでの目標位置にピンクの付箋に名前を書いて貼りに行く。

そのつど担任が生徒一人一人にインタビューしてコメントを引き出す。こうして、進路への取り組みの現状と目標意識をクラスの仲間として共感や羨望を感じながら、応援しあう雰囲気醸成することをねらいとする。

その気持ちを前提に、各自、現時点での進路目標を見据えて、「目標実現シート」を書く。

表4 平成25年度 キャリアサクセス 年間授業計画(卒業年次 2単位)

回	実施月日	単元	タイトル 内容
1	4月26日	目標・計画①	進路実現に向けて今すべきことを明確にしよう
2	5月17日	目標・計画②	年間のスケジュールを見通し進路活動計画を立てよう
3	5月24日	志望動機①	志望理由を考え、みんなで深めよう
4	5月31日	志望動機②	志望理由書の形を学び、考えを表現しよう
5	6月7日	志望動機③	面接試験の基本を知り、マナーを身につけよう
6	6月21日	目標・計画③	夏休みの計画 オープンキャンパス情報〈PC室〉
7	6月28日	志望動機④	自己アピールの内容を深めよう
8	7月5日	小論文学習①	理由・根拠をもって主張しよう
9	7月12日	小論文学習②	論点を共有して反論し、生産的な議論をしよう
10	9月6日	目標・計画④	夏休みのふり返り 今後の行動計画 相互交流
第11～25回（9月～1月）は充実タイム（個別の取り組みと指導）			
26	2月7日	高校生活のふり返り①	「後輩へのメッセージ」の書き方を知り、書き始める。
27	2月14日	高校生活のふり返り②	「後輩へのメッセージ」を書く。推敲する
28	2月28日	高校生活のふり返り③	「後輩へのメッセージ」完成 → 授業発表会展示作品

(2) 目標・計画② 年間のスケジュールを見通し進路活動計画を立てよう

この授業のねらいは、進路実現に向けた①プラン&ドゥー、②モチベーション、③スキルアップであることを確認したのち、キャリアサクセスの合言葉「みんなちがって支えあう」を示した。それぞれの進路（大学一般入試、大学短大AO推薦、専門学校、就職）に合わせたスケジュールを確認し、自分の年間計画表を作成し、自分の課題をリストアップした。

最後に、進路別（選抜方法別）のグループで各自の課題を付箋に書いて出し合い、大判用紙に話し合いながら配置する作業を行なった。進路意識を啓発し合うねらいがある。

(3) 目標・計画③ 進路情報を集めて夏休みの計画を立てよう

次の「志望動機」の単元を挟んで、6月に実施する。夏季講習やオープンキャンパスの情報を集めて、夏休みの計画を立てる。就職の生徒は、就職活動の基本知識をインターネット上のガイダンスで学ぶ。

2) 志望動機（志望理由書、面接）

志望動機を高める活動として、志望理由書を書き、面接練習をする。一般入試の生徒には必要のない活動だが、この課題に取り組むことで志望動機を明確にし、互いに刺激を受けることが、一般入試をやり抜くモチベーションにつながるのだと、くり返し伝える。

(1) 志望動機① 志望理由を考え、みんなで深めよう

キャリアデザイン志望動機①とほぼ同じプロセスで、志望動機シートを各自書いたのち、相互インタビューで深め、また個人作業に戻ってシートに書き加える。過去に経験した作業だが、2年次に比べて進路目標が明確になり、切迫感が高まってきているので、慣れたプロセスを使って、より深い学習となる。

(2) 志望動機② 志望理由書を書いて考えを明確化しよう

これも、キャリアデザイン志望動機②とほぼ同じプロセスで、志望理由書を書く作業に取り組んだ。書き終わらない生徒は自宅課題とし、早く書き終えた生徒は、グループになって志望理由書を互いに読みあい、「いいところ探し」を行なう。

2年次では進路先を架空の設定にしてスラスラ書けた生徒たちも、卒業年次のこの時期になると志望先が現実的になり、なかなか筆が進まない、という様子が観察された。

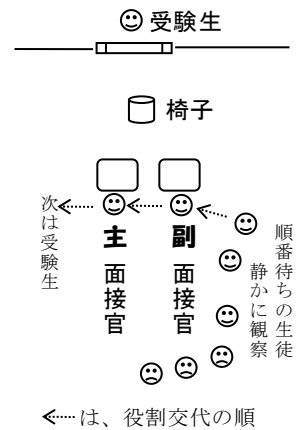
(3) 志望動機③ 面接試験の基本を知り、マナーを身につけよう

一般入試を目指す生徒には直接の必要性は感じられないが、上に述べたように志望動機を明確にし、モチベーションを高める活動であると同時に、社会人としてのマナーを学ぶ意味合いも伝える。

面接試験の形式やマナーなど、形式的な点を学ぶために、各部合同授業で解説のDVDを視聴する。その後、各HR教室に分かれ、相互面接練習を行なう。順番に面接官と受験生を演じ、相互に感想を言い合う。(図11、表5参照)

表5 相互面接練習のシナリオ

受験生	面接官(主)
① 廊下で、身だしなみ、姿勢を整える。 ② ノックする	③「はい、どうぞ」
④入室し、お辞儀。椅子の左に立つ。 ⑤都立稔ヶ丘高校から来ました〇〇です。 よろしくお願いします。お辞儀。	⑥「どうぞ、お座りください」
⑦「失礼します」と言い、着席。	⑧ 〇のついた質問をする。 ⑩ 答えを受け止める。 ⑪ 「以上で面接を終わります」
⑨質問に答える。	
⑫立ち上がり「ありがとうございました」。お辞儀 ⑬ドアの前でお辞儀 退出	



(4) 志望動機④ 自己アピールの内容を深めよう

面接試験のさまざまな質問が何を訊いているのか、その根本を理解し、些末な違いにふり回されずに自分をしっかり持って臨機応変に応答できる姿勢をつくることをねらいとする。

志望理由シートを図 12 のように分けて考え、自己アピールの意味を理解する。

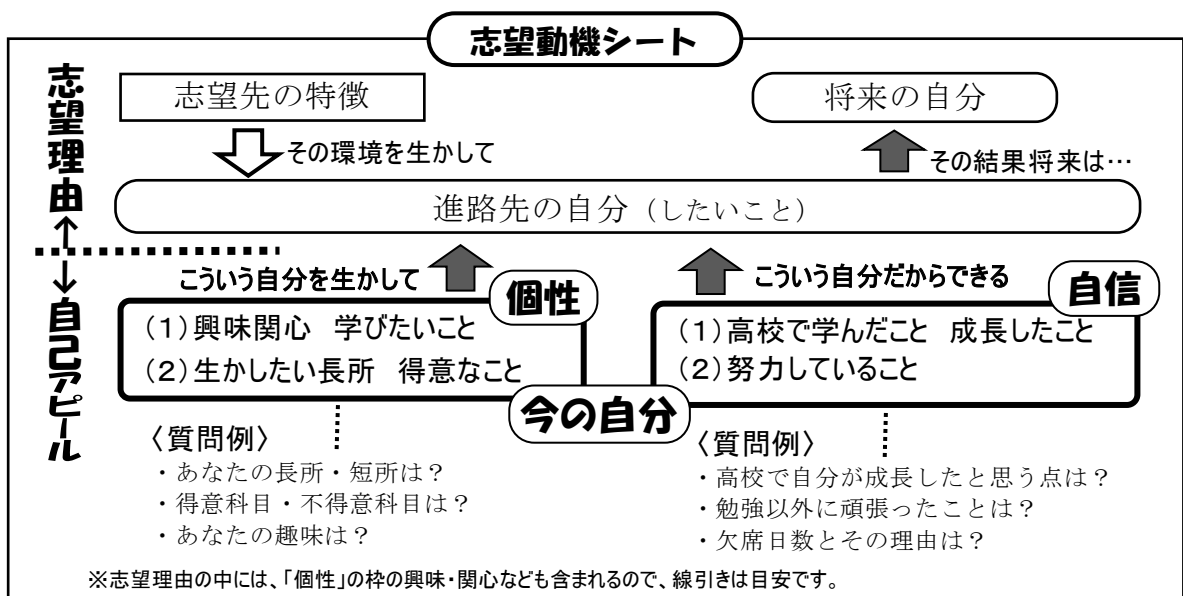
面接の質問項目を羅列的でなく、体系的に整理した冊子「面接応答虎の巻（稔ヶ丘秘伝）」を制作し、用いた。さらに、自己アピールの「3つの根本」(図 13)を示し、これに自信を持って答えられる自分を作ることが大切であることを伝えた。

さらに、グループになり、「3つの根本」を自信を持って答える練習をしたのち、相互インタビューで自己アピールの内容を深めた。

【生徒の感想から】自己PRと言われても「どんなことを言えばいいのか」と思っていたが、今回の授業で「3つの根本」を学んだら、無理だと思っていたことが実はすごくシンプルなことなのだと気づきました。(女子)

- ①積極的に取り組みます
②粘り強く継続できます
③周りの人と協力していけます

図 13 自己アピールにおける3つの根本



3) 論理的思考 (小論文)

小論文の学習だが、入試での必要度や文章力レベルの異なる多様な生徒たちを相手に授業を構成しなければならない。そこで、安易にレベルを下げて原稿用紙の使い方や「てにをは」などの指導でお茶を濁すのではなく、より本質的なことを教えて、各生徒が自分なりに気づきを得られるよう工夫した。

ただし就職希望者は、この時期、求人票が公開となるので、別途、パソコン教室で求人の検索を行なう。

(1) 小論文学習① 理由・根拠をもって主張しよう

「環境保護のためのコンビニの深夜営業規制」について書かれた『天声人語』を課題文にして、「深夜営業規制」に賛成か反対かを考え、各自自分の考えをメモする。そのあと、同テーマで書かれた小論文の例を見て、小論文の構成を知る。表に示す通りだが、このうち、前半部分(主張・理由・根拠)をこの回では学習する。

賛否が分かれるいくつかの課題について、賛成か反対か、その理由・根拠を書いてみる。

その後、グループになり、一つの課題に順に主張、理由、根拠を書いていくというワークを行なう。4つ折りシートの下から一人ずつ書き、見えないように裏に折って隣の人に回す(図14)。それをくり返し、1つの課題に対して3人の意見が書かれるが、お互いの書いたものは見ていない。最後に全部開いて回覧し、理由・根拠が整っているかをみんなで評定する。さらに、それぞれの課題について、時間を区切って意見交換する。

【生徒の感想から】 理由と根拠がどうしても似通ってしまうのが難しかった。社会事情についての根拠などは、ニュースや新聞をチェックしていないと書くことができないので、ちゃんと新聞などで情報を収集したい。みんなの主張・理由・根拠が自分では考えつかないこともあって、すごいなと感じた。

表6 小論文の構成

●小論文の構成(型で覚える)

①主張

この場合は、賛成か反対か。最初に主張を端的に書く。

②理由

主張の理由を「なぜなら、～からだ」などの形で書く。

③根拠

理由を証拠立てる事実やより具体的な説明

④反論想定・再反論

- 想定される反論を自分で書き、問題提起を受け止める。
- 想定した反論に再反論して、自説の正しさを立証する。

⑤結論

全体をまとめるが、最初にかいた主張と一致させる。

- 3** 日本のすべての原発は再稼働することなく、廃炉すべきだという意見がある。
これについて、あなたの考えを述べなさい。

<作業手順>

- 一番下の欄から使う。文字はペンか濃い鉛筆で大きく
- まず左端に名前を書く。
- ①主張、②理由、③根拠を書く。
文章でなく、箇条書きやメモでよいが、
他人が読んでわかるように書く。
- 自分の欄を書いたら、裏に折って隠す。

名前→

裏に折る↓

課 題	
山田	①主張 ②理由 ③根拠
鈴木	①主張 ②理由 ③根拠
佐藤	①主張 ②理由 ③根拠

3人目

2人目

1人目

図14 主張練習のためのグループ用シート(課題・説明部分)

1 桜ヶ丘高校に飲料の自動販売機を設置すべきである。
なぜなら、校内で飲み物が買えれば、熱中症など水分不足による事故が防げるからだ。

【作業手順】

- 1) 一番下の欄から使う。文字はペンがよい鉛筆で大きく
- 2) 左側に名前を書く。
- 3) 主張が提起している「論点」を書く。
- 4) 論点を受け止めて「反論」する。
- 5) 自分の欄を書いたら、裏に折って出す。

課題	3人目	2人目	1人目
論点			
反論			

名前→
裏に折る！

論点：自販機を設置すれば、熱中症が防げる。

反論：自販機を設置し、校内で飲み物が買えようになったとして、
本人がこまめに水分補給をしないか、問題のため、今と同じ、
冷水機と効果は変わらない。

【論点】校内で飲み物が買えれば、熱中症等を以下略

【反論】学校には冷水機があるので、自販機がなくても飲水に困らない。
水分不足等の事故は、おこらない。

【論点】自動販売機を設置、熱中症などの事故が防げる

【反論】自動販売機を設置すれば、熱中症などの事故が防げる。
かもしないが、番主場所の確保や、ゴミの問題も考えてみる。

図 15 反論練習グループシート

(2) 小論文学習② 論点を共有して反論し、生産的な議論をしよう

前回の学習の続きとして、「かみ合った反論」とはどういうものかを、体験的に理解する。

まず、前回の続きで、コンビニの深夜営業規制に関する別の小論文を読み、それに対する反論を付箋に書いて、グループで出し合う。

次に、校則違反の茶髪を注意され教師に反論する生徒の例から、正しい反論とは、相手の言う論点を受け止めてそれに答えることだと理解する。

最初にグループで出した反論の付箋が、元の小論文の論点とかみ合っているかどうかを話し合ってから、「かみ合った反論」を見分ける練習をする。

前回と同じ4つ折りの紙に下から書いていく手順で、課題の主張への反論を書き、見えないように折って回し、1課題につき3人の反論が書かれるようにする。紙を開いて、かみ合っている反論には○、かみ合っていない反論には×を書いてサインし、全員に回す。(図 15 参照)

最後に、「高校生に求められる論理的態度」を2回分のまとめとして示した(表 7 参照)。

【生徒の感想から】今回の4人グループは、前回とは違うメンバーだったので、同じような題でも、異なる論点を知ることができました。先生がまとめとして話した「相手の論点に沿って話すと、意見が異なっても相手は不快にならない」は、本当にそうだと思います。ちゃんと話を聞いていることが伝わるので、日常生活でも論点を探し、実行していきたいです。

表 7 論理的思考(小論文学習)のまとめ

＜高校生に求められる論理的態度＞

- ①自分の考えを理由・根拠を挙げて主張できること。
- ②相手の発言を尊重し、論点をつかんで応答できること。
(反論だけでなく、質問への受け答えも同じ)

これらが身につけば、細かい点はいつでも、**有望な生徒**だと見てもらえるのです。

4) 充実タイム（フレキシブルに活用できる時間）

9月の第1週の授業では、「目標・計画⑤ 進路実現への道のりを確実にしよう」と題して、夏休みの取組みをふり返り、「進路意識二次元スケール」を用いて、自分の現在の位置を確認し、共有した。さらに、目標実現シートを再び書いて、進路実現への道のりを確かめなおす。

以後、卒業を控えた生徒たちの進路活動が本格化するため、9月の第2週～翌年1月まで、キャリアサクセスの授業は「充実タイム」とし、統一的なカリキュラムは実施しない。各自で進路活動の準備に取組み、担任やキャリア教育部の教員が面接練習や就職指導を行なうなど、フレキシブルに使える時間とした。そこで、生徒がこの時間を有効活用できるように「充実タイム活用シート」に計画を立てられるようにした。

また、合格し進路が決定した生徒のために、進路先での活躍に向けて自分の弱点や課題を発見し、それを克服する取組みを考える「充実目標発見シート」も用意した（図16）。これは、「目標実現シート」を原型にしたもので、進路目標を達成した自信と感謝をリソースにして、進路先での夢の日々を実現するために、今の自分をさらに成長させようという見通しを持つことができるように工夫してある。

記入日 2025 年 11 月 11 日

進路先の夢に向けて 充実目標発見シート

① 進路先での夢（どんな毎日を送りたい）

＜学業・仕事＞ 他活動、プライベート

留学をして現地の人とスナーズに 友だちをたくさん作る。
会話がでるようになる。 他国の友だちをたくさん作る。
レベル別な得意、得意に上級へは アドバイスでお金をためる。
のばしていききたい。

② 卒業までにこれをやろう
（学力・能力面の具体的なプラン）

ハングルの「あいいうえおふ」など覚える
簡単な単語を覚える。
英語のテストをとりあえず平均点代。
英検の級を受ける。
日本史にくわくなる。
合格した学校にたくさん行く。

③ 行動・生活面でこうなりたい
真生、心を強くしたい。
きよく正しい生活をおくる。
親の手伝いをする。
姉と仲良くする。

④ 卒業までにこれをやろう
（行動・生活面の具体的なプラン）

責任感、楽しさを かなげなえた
心の強い人になる。
きよく正しい生活をおくる。
自分に自信をもつ。
ううんを やめる。
元気でいる。

※「こうなりたい」は今の自分では不安があり、卒業までに少しでもよくしたいと思うこと。

進路目標を実現した自分

② 自信のリソース（進路実現のために努力したこと） ③ 感謝のリソース（進路実現でお世話になった人は？）

英語検定、2級に受かった。
希望する学校にたくさん行って体験授業
を受けた。

家族、友達、家田先生、内田先生
希望する学校の先生
韓国の人

＜書き方＞ ①から④の番号順に記入し、卒業までの時間を充実させる目標を見つけてよう。

図 16 充実目標発見シート（作業例）

5) 高校生活のふり返り 稔ヶ丘高校での体験を後輩のために書き残そう

稔ヶ丘高校を卒業していく生徒たちは、大半が不登校の経験を持ちながら、本校でそれを克服し、自己成長を遂げていったというドラマを、一人ひとりが持っている。それは貴重な体験であり、ことばにしないでおくのはあまりにも惜しい。それが書き残されたならば、とりわけ、大きな不安を抱えて本校に入学してきた新入生や、その後もさまざまな課題に悩みながら努力している後輩たちに、勇気を与えてくれる経験談になるはずである。

そこで、キャリアサクセスの最後の単元として、稔ヶ丘高校で困難を乗り越えて成長してきた体験を語り、後輩に向けてメッセージを書くという課題を設定した。

字数は 600 字を目安に簡潔に書き、パソコン室で展示用の書式に入力する。出来上がった作品は、3 月の授業発表会で展示されるとともに、データとして保管され、個人情報に配慮しながら、後輩のために活用される。例えば、「産業社会と人間」の第 1 回では、「先輩からのメッセージ」として、いくつかが紹介され、新入生たちを勇気づける。

新入生へのメッセージ Ⅱ部男子	卒業年次生へのメッセージ Ⅱ部女子
挑戦できる場所 小学六年生の一月ごろ、私は学校を休み始めてしまいました。友人関係がその理由です。その後、中学 2 年の秋に適応指導教室に行くまで、ほとんど家を出ることができない状態でした。稔ヶ丘高校に入ったのはそんな不登校期間で、人と話すことが極端に苦手になってしまったのを克服するためです。入学の時には、家族以外の人とまともに話せないような状態だったので、ちゃんと高校生活を送れるかという不安と、高校に入るまでお世話になった人のために、色々なことに挑戦していこうという気持ちがありました。 実際に入学してみると、同じような経験をしたからかやさしい生徒が多く、先生も授業をわかりやすく噛み砕いて教えてくれるため、安心して学校生活を送れる環境でした。一年次のときは文化祭実行委員として、失敗は多くありましたが、人前で話す経験を積めました。二年からは部活動に入り、その秋からは部長になりました。部活動に取り組むうちに人前で話したり、演奏したりする経験、そして何よりも楽しく充実した生活を送れました。 私がこんな高校生活を送れたのは、稔ヶ丘高校の生徒や先生が優しく、困ったときには話を聞いてくれ、手を貸してくれる人たちのいる学校だったからだと思います。 新入生の皆さんも、ぜひこの環境で自分なりの挑戦をして、たくさん失敗と成功を経験し、自立した強い心を持って卒業してほしいと思います。 〈進路：私立大学社会学部に進学〉	進路を決めるためにできること 私は、高校生活の 3 年間を通して人間関係で悩むことが何度もありました。中学校で不登校になったときよりも、高校での生活のほうが辛く、心が折れて学校に行けず、休んでしまったり、ストレスで体調を崩してしまうときもありました。 どうしても辛くなったときは、親や稔の先生、学校外の友達に相談して励ましてもらって気持ちを立て直し、学校に来ていました。また、将来のことを考えるようになると、「学校に行きたくない」という気持ちよりも「進学して、自分の好きなことを学んで将来に生かしたい。」という気持ちのほうが強くなり、休むことが少なくなりました。 私は稔ヶ丘に入学して 3 年間で、自分の心は動くなっただと思います。どんなに辛いことがあっても、もう一度がんばろうと起き上がり、成長することができました。「強い心」を持つことで、大学に進学したいという目標ができ、好きなこと、目標、夢のために、今は辛いけど頑張ろうと思えたのだと思います。 進学や将来を考えるのなら、絶対に早くて損はありません。焦りすぎることは良くありませんが、自分の好きなこと、興味のあることはなんだろうと考えてみると、見つけやすいかもしれません。 卒業まであと 1 年。残りの高校生活がいいものになるように願っています。 〈進路：私立女子大学生活科学部に進学〉

図 17 後輩へのメッセージ 生徒の作品例

Ⅳ 5 期生に見る成果と考察

1. 生徒アンケートの結果 （3科目の比較）

次に、生徒のアンケート結果を通じて、本プログラムのねらいがどの程度生徒の意識に反映したかを見てみたい。

アンケートは、記名式で、10個の項目（表6）に4段階（はい、ややはい、ややいいえ、いいえ）で回答を求めた。5期生が1年次に「産業社会と人間」、2年次に「キャリアデザイン」を受けたその年度末に実施し、3年次は、キャリアサクセスの統一的学習内容がほぼ9月頭で終わるので、10月の前期末の時点で実施した。その結果をグラフで示し、考察を加える。

回答人数は、1年次産業社会と人間 139名、2年次キャリアデザイン 111名、3年次キャリアサクセス 53名である。キャリアサクセスは卒業予定の生徒のみだが、さらにアンケート結果が1クラス分未入力のまま紛失してしまったため、データ数が極端に少なくなっている。異なる人数の集団を比較しやすくするために、数値はパーセンテージを用いた。

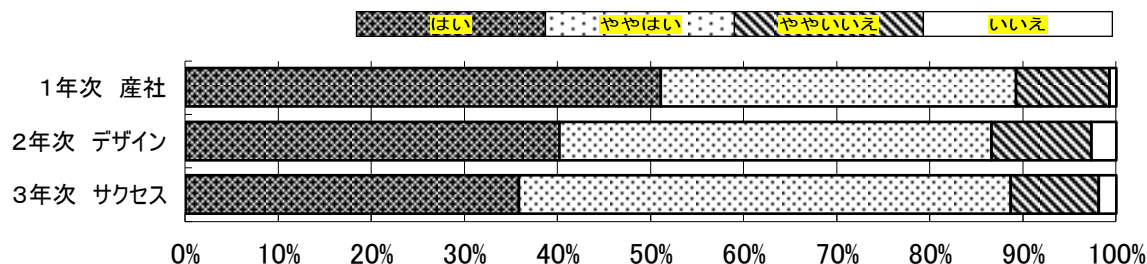
各科目のアンケートは項目を対応させて作成したが、一部表現が異なるものがあり、年次により変更せざるを得ないものもあった。それらはそのつど示してある。

1) 「自他発見」のねらいに関して

（1）この授業は自分を見つめる機会になった（産社）

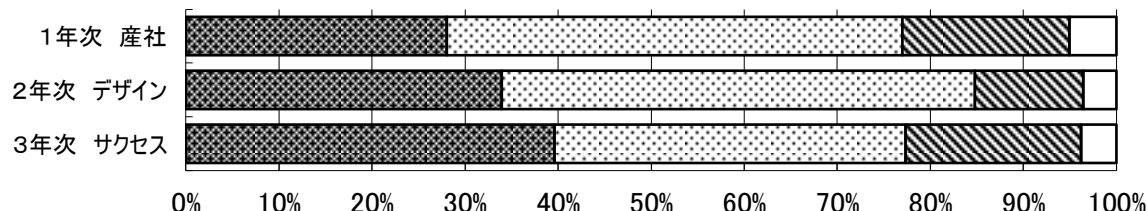
この授業は自己成長の機会になった（デザイン、サクセス）

図 18-1



（2）この授業は、仲間を理解する機会になった。

図 18-2



この2つは、自己成長に向けて自分を見つめ、仲間と学びあうという「自他発見」の活動および合言葉「みんなちがって～」に込めたキャリア科目のベースとなる部分への評価項目である。

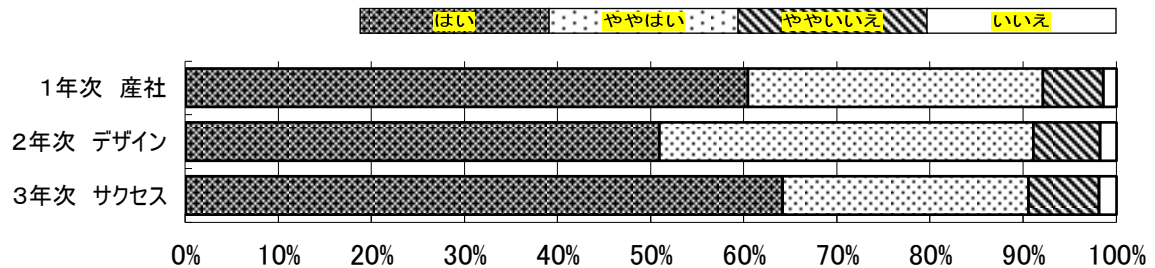
「（1）自分を見つめる機会／自己成長の機会」では、「はい」と明確に答える生徒は年次を追うごとに少なくなるが、「ややはい」を合わせて肯定的評価が9割に上る傾向は変わらない。

「（2）仲間を理解する機会になった」では、肯定的評価の合計は8割前後であるが、「はい」

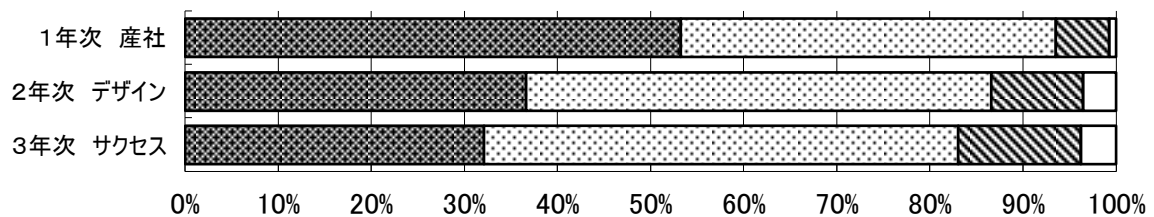
と明確に答える生徒は年次が上がるごとに増加する。年次進行に合わせて無理なく少しずつ生徒同士が関わり、協力して学習を進めるワークを増やしてある。そのことの効果が確認される結果である。

2) 各単元のねらいに関して

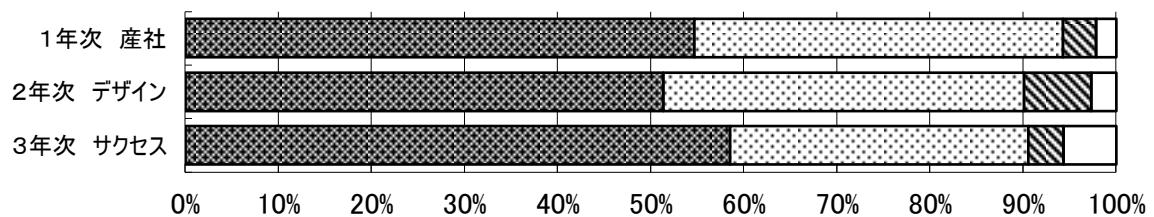
(3) この授業で、将来について（具体的に）考えるようになった。 図 18-3



(4) この授業で、働くことについて考えるようになった。 図 18-4



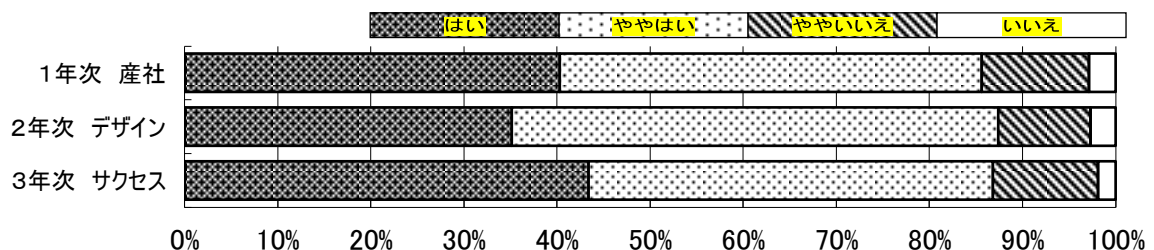
(5) この授業で、進学について（具体的に）考えるようになった。 図 18-5



この3項目は、それぞれ、「将来設計」「職業理解」「上級学校理解」の各単元の目標に対応している。いずれも、「はい」がかなり多く、肯定的評価がほぼ9割以上を占める。生徒たちの進路意識を喚起し、維持する効果を確認できる結果である。

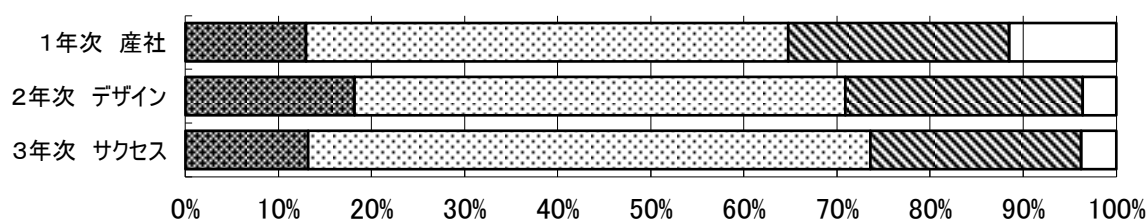
3) 高校生活への取組みへの影響に関して

(6) この授業で、今やるべきことを考えるようになった。 図 18-6



(7) この授業で、学習へのやる気が出た。

図 18-7



この2つの項目は、キャリア科目の授業での学びや気づきが、日常生活の意識にどの程度、反映したかを聞いている。

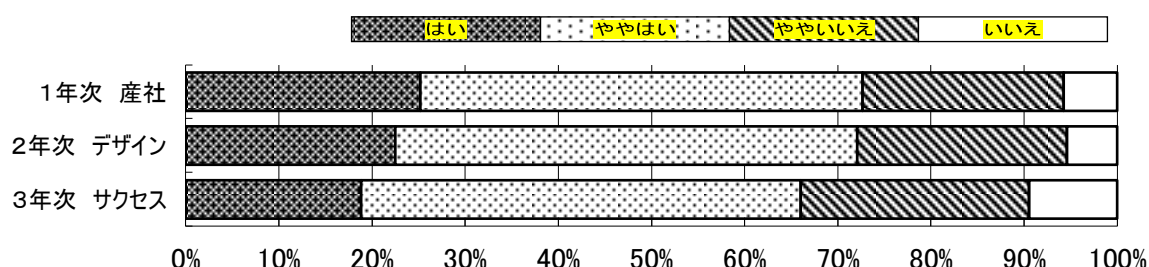
「(6) 今やるべきことを考えるようになった」では、いずれの科目でも約8割以上の生徒が肯定的回答である。とくにサクセスでは、より多くの生徒が「はい」と明確に答えており、進路に向けた具体的取組みを促す授業展開が、彼らの意識を後押ししていることが伺える。

それに対して、「(7) 学習へのやる気が出た」は低めに出ているが、年次を追うごとに着実に肯定的回答が増えている。とりわけ、2年次でのやる気につながっているのは、中だるみの時期であることを考えると、望ましい傾向といえる。

4) 授業自体の評価

(8) この授業は、楽しかった。

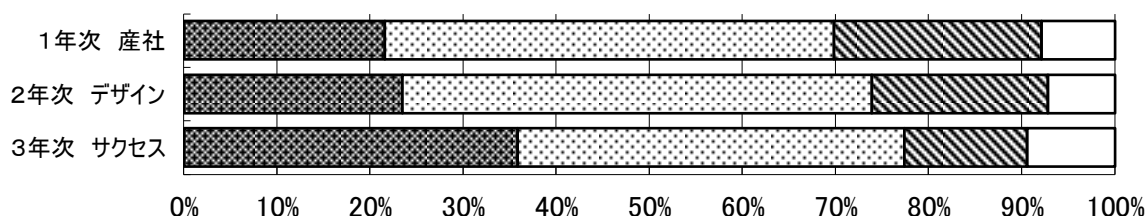
図 18-8



(9) このような授業をさらに受きたい (産社、デザイン)

後輩にも勧めたい (サクセス)

図 18-9



これらの項目は、授業全体への評価である。

「(8) 楽しかった」というのは、楽しさの基準が生徒によって異なるので、一概には解釈できない。3年次サクセスの肯定的評価が減少しているのは、否応なく「進路」に向き合わざるを得ない授業なので、無理もないと思える。その反面、それでも65%の生徒が肯定的に回答しているのは、自分の考えを整理したり、仲間と相互理解しあう活動が、彼らの進路活動の苦しみを「楽しさ」に転化できる時間であったと信じたい。

「(9) このような授業をさらに受きたい」が、産社よりもデザインで上昇しているのはあ

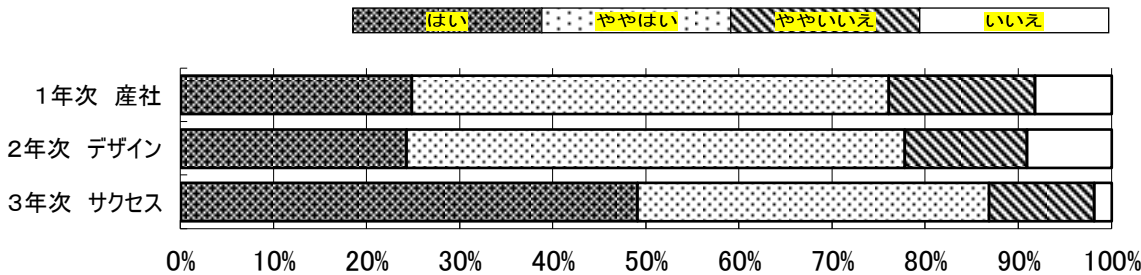
りがたい。サクセスでは、次年度がないので「後輩にも勧めたい」という項目に変えたが、肯定的回答が多く、苦労はしても結果として「よかった」という評価の表れではないかと推察され、科目構想のねらいは功を奏したと考えてよからう。

5) 進路体験学習／進路活動に関して

(10) この授業で進路体験への意欲がわいた（産社、デザイン）

この授業は自分の進路活動に役立った（サクセス）

図 18-10



これらの設問は、趣旨が異なるので、比較すべきものではなく、単年次で見るのがよい。
産社、デザインともに、進路体験学習（旅行）の事前学習を授業の中に組み込んであるので、その成果が評価できる。いずれも8割近い生徒が肯定的に回答している。

サクセスに関しては、「進路活動に役立った」というのは、科目のねらいからして、もっとも重要な評価である。ほぼ半数の生徒が「はい」と明確に答え、「ややはい」を含めると、9割近い生徒が役立ったと感じており、ねらい通りの結果が出ている。志望理由書、面接、小論文と、進路活動に直結した課題を用意しているのだから当然だと思うかもしれないが、先述したように、一般入試の生徒には直接関係がなく、専門学校進学者や就職希望者のニーズとも完全には一致していない。しかし、これらの学習を、志望動機を明確にし考える力をつけるための学びあいの場として明確に打ち出し、ワークを工夫したことで、自分の進路にも「役立つ」と実感させられたのではないかと考える。

2. 5期生の進路状況（3年次卒業生5年間の比較検討）

こうして歩んできた5期生の進路状況がどうなったかを見てみたい。

現在の時点で、5期生4年卒業予定生徒の進路は結果が確定していないので、5期生3年卒業生との進路結果を他の年次と比べてみる。そのため、1期生から4期生の結果も3年卒業生のみデータを抽出した。

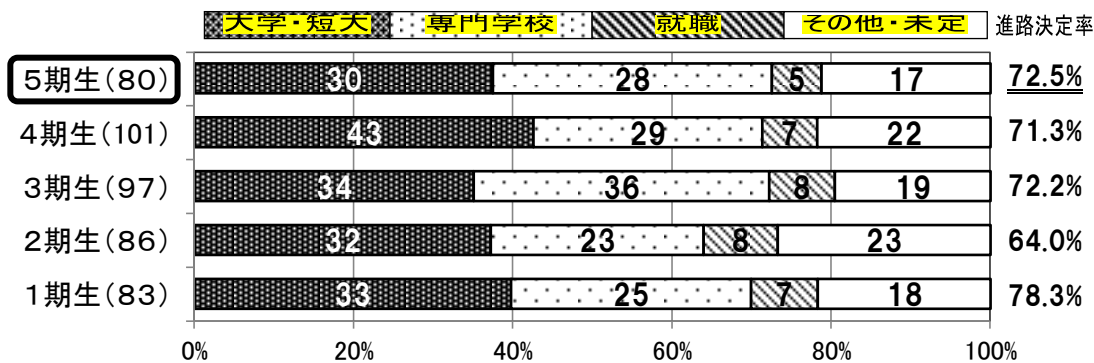


図 19 5期生進路状況の他年次との比較 グラフ内数字は実人数 () 内は卒業生数

これを見ると、5期生の進路決定率は他の年次と比して悪くはないが、顕著な差は出ていない。本稿で述べてきた系統的キャリア教育を3年間受けた生徒たちだが、改訂前のキャリア科目を受けた生徒たちとの間に、進路面での格別な成果が上がったとは言えないようだ。

今後は、4年次も含めた進路状況を比較してみたいが、推薦入試や就職の結果が出て、あとは一般受験を残すのみとなった現時点で、現4年次生の進路状況が例年に比べて格段に優れているという事実もないため、大きな差が出ることは期待できそうもない。

なお、5期生の3年卒業生の人数が他の年次よりも少ないが、その理由は明確でない。生徒・保護者が3年卒にこだわる傾向に対して、「4年卒が原則」を学校として強調するようになり、担任団もその考え方で指導に当たったことは事実である。

3. 5期生の活動面の成果

これら系統的キャリア教育（新版）をすべて受講した初の年次である5期生の様子をエピソードとして紹介しておきたい。

1) 文化祭の取組み

稔ヶ丘高校の文化祭は、毎年、9月中旬に実施される。開校当初、生徒の負担を考慮して1日開催だったが、現在は1日目校内発表、2日目一般公開という日程で定着している。美術が得意な生徒が多いため、エントランスや校内の飾りつけ、意匠はカラフルで人目を引くものが多い。

出し物はクラス単位（合同もあり）での参加が義務化されている。全日制高校などでは当たり前のことだが、他のチャレンジスクールでは有志による参加形態が多いといい、稔ヶ丘高校の文化祭は、生徒の仲間づくり、自他肯定感の涵養に貴重な場であると考えられる。

平成24年度の文化祭（第6回稔祭）で、5期生Ⅱ部の生徒たちは、4クラス（部全体）合同で、合同喫茶「関西喰い喰い横丁」という出し物に取組んだ。これは、食堂（Ⅲ部給食用だが、ⅠⅡ部生徒の昼食場所でもある）に関西風の飾りつけを施し、焼きそばやベーグル、飲み物などの店を並べ、来場者に関西の雰囲気味わってもらおうという趣向である。10月に関西（京都・大阪）で実施する予定の進路体験旅行を意識したコンセプトで、京都の清水寺、大阪の道頓堀などの巨大な風景画で壁面を埋め尽くし、食い倒れ人形やグリコ看板、通天閣など、関西を連想させるさまざまな作り物を並べた。また、関西の観光情報などを調べ、研究発表風のポスターも並べた。この準備に、文化祭実行委員に加えて意欲のある生徒たちが中核集団を作り、各分野に人員配置をして組織的に取組んだ。会場の設計、関西風の飲食物の調達など、それぞれの得意を生かして準備を進めた。ほとんどのⅡ部生徒たちがこの組織に加わり、夏休みからコツコツと作業を進めた生徒たちもいた。

文化祭準備期間には生徒たちは総動員で準備に当たり、前日には豪華な会場の飾りつけが完成した。当日も全員でシフトを組んで接客にあたり、会場の雰囲気は、客を楽しませたいという“おもてなし”の気持ちに溢れたものであった。その取組みが評価され、生徒・教職員・来場者による投票で、最優秀賞を受賞した。

これは、「みんなちがってみんないい」という自他肯定感をベースに、「みんなちがって役割がある」「みんなちがって高めあう」という関係づくりを目指したことの一つの成果と考えられる。このような典型的な形ではないものの、Ⅰ部やⅢ部においても生徒たちの仲間づくりが良好に進んでいたことは報告されている。翌年、3年次の文化祭では、Ⅰ部の生徒たち

がこれと似た合同企画に取り組んだ。これは、生徒たちの関係の成熟だけでなく、仲間（他の部の同期生）の達成行動を見ることが、学び合いの連鎖を生んでいく例だと考えられる。



写真3 文化祭準備風景



写真4 客で賑わう店内

2) 卒業式の式歌

平成 26 (2014) 年 3 月 21 日、稔ヶ丘高校の第 5 回卒業式が挙行され、5 期生 3 年卒業生名は、4 期生以上の卒業生 名とともに稔ヶ丘高校を巣立っていった。式の最後に、恒例の式歌『旅立ちの日に』（作詞小嶋登、作曲坂本浩美）が、卒業生と残る 3・4 年次生全員によって歌われた。男声一部、女声二部の三部合唱で、その歌声は大きな波のように体育館中に響き渡った。その年度に赴任し、本校の卒業式を初めて経験した熊谷通眞校長は、「すばらしい歌声で、たいへん感動的な卒業式だった」と、職員会議や始業終業集会の談話で繰り返し称賛した。

実は、5 期生の有志たちの呼びかけで、2 月初めくらいから生徒たちが部を越えて集まり、何度も合唱の練習をしていた。Ⅱ部 3 年 2 組担任の安田清美主任教諭の熱心な働きかけもあり、有志の生徒たちが動き出した。また、Ⅱ部 4 年 3 組担任の神山耕平教諭は、音楽科として指揮者の生徒を指導し、リーダーに育て上げていった。さらに、卒業式予行のあとの体育館での全員練習の際には、安田教諭が、「この歌は今までお世話になったご両親や先生方、仲間たちへの感謝の形なのよ」と、熱意をもって語った。それまで練習をしていなかった 4 年次の生徒たちも、そのことばに目を輝かせ、しっかりと声を出して練習に取り組んだ。校長を感動させた歌声の裏には、そうした生徒たちの取り組みがあったのである。

V. むすび

1. 本稿のまとめ

稔ヶ丘高校では、「産業社会と人間」（1 年次）に加えて、2 年次に「キャリアデザイン」、卒業年次に「キャリアサクセス」を置く、系統的キャリア教育を実施している。本稿ではその系統性を、不登校の生徒を受け入れ、成長させていく稔ヶ丘高校の生徒育成モデルに位置づけて整理した。

その具体化として、筆者が中心となって開発・全面改訂した新版「キャリアデザイン」「キャリアサクセス」の概要と制作意図、具体的なワークの詳細を解説した。これ

が本稿の中心部分を成し、大半の紙数を占める。

そのうえで、新版の授業を初めて通しで受講した稔ヶ丘高校5期生の事例を分析し、この取組みの効果を検討した。生徒アンケートの結果を見ると、いずれの科目も各項目の肯定的評価は高い。とくに3年次の「キャリアサクセス」が「自分の進路活動に役に立った（はい・ややはい）」と答えた生徒は77%で、「この科目を後輩にも勧めたい（はい・ややはい）」という生徒は87%に上っている。科目のねらいは生徒に伝わり、「役立つ」実感にもつながっていると考えられる。

進路決定率等では、5期生が他の年次と比較して特別に高いわけではないが、文化祭の合同企画や卒業式の式歌の練習などの事例から、クラス・部・年次単位で仲間意識が高まり、その中で力のびと力を発揮しあう生徒たちの様子が伺える。1年次「産業社会と人間」の“みんなちがってみんないい”に始まり、2年次「キャリアデザイン」“みんなちがって役割がある”、“みんなちがって高めあう”、そして、卒業年次「キャリアサクセス」“みんなちがって支えあう”という合言葉で目指してきた自他肯定感を醸成し、学びあいを促進するねらいは、一つの形になったように思える。

2. 今後の課題

1) 継承の問題（再び）

「産業社会と人間」のプログラムを紹介した山崎（2012）のまとめでは、科目の継承の問題を取り上げた。こうした新科目は、一般的には創設メンバーがいなくなると、授業継続が難しくケースが多いが、本校では特殊なクラス編成のおかげで、毎年担当者が交代しつつ、引き継がれていると述べた。つまり、1年次15名の少人数から2年次ではクラス人数が増え、担任の人数が減るため、1年次に留任した先生がコピーングや「産業社会と人間」を担当するという流れができています。

今後継続していくことになる卒業年次「キャリアサクセス」についても、また別の形の幸運なしくみがある。定時制でありながら3年次でも卒業できるため、担任は3年次と4年次で「キャリアサクセス」の授業を2年間担当することになる。授業会は3・4年次合同で実施するので、4年次担任が授業会を主宰し、次年度は3年次に授業を1年間実施した経験のある先生が、4年次に持ち上がって、次の授業会担当になるという形で継承できるのである。

その点では、2年次だけは事情が異なっている。クラス人数の増加、クラス数の減少は、2年次、3年次と段階的に進むため、3年次担任団の人数も減るが、異動や他の分掌への配置換えもあり、下からの持ち上がりもあるので、留任者が出ることはあまりない。したがって、2年次「キャリアデザイン」を体験した人が次の授業会を主宰するという形は難しい。授業経験のない先生方が授業を担当することになるので、体験的理解が乏しく、単元やワークの意義も十分に伝わらない怖れがある。

実際、6期生の年次では、2年次「キャリアサクセス」について、組織的検討がないまま、担任団のみの判断で全体構成や一部単元の大幅な変更実施がなされるという混乱が生じた。そのことを教訓として、キャリア科目の系統性・継続性を保ちつつ改良・発展させていくために、すべてのキャリア教育科目で、前年度次年度の科目担当者としてキャリア教育部主任が構成するチームで次年度の計画を検討するというしくみ

が作られた。その運用については今後の課題である。

本稿もその点を念頭に置き、稔ヶ丘高校の先生方の理解を第一に考えて執筆した。そのことは「本稿の目的」に述べたとおりである。

2) 稔ヶ丘高校の将来を展望した議論を

授業の継承に加えて忘れてならないのは、学校として生徒をどうとらえ、どう育てていくかを議論し、そのための取組みを考え、実行していくというムーブメントの継承性である。

その意味で、校内研修会などで稔ヶ丘高校の課題や取組みを議論していく「10年目の稔ヶ丘」というプロジェクトも、2年以上継続している。これは、本校のミッションとそれに向けた現状の取組みと課題を一望できる図解にまとめ、その共有基盤に立って議論を進めていくというものである。

そのテーマとして2014（平成26）年度には、2年次以降の「自立する力」の育成策と、「卒業までにこれだけは身につけさせたい」という「稔ミニマム」が取り上げられた。全教員から出された「稔ミニマム」の候補リストは、2年越しで検討されてきたが、整理してみれば、先生方の「稔ヶ丘の生徒にこの力はつけさせたい」という思いの集大成であることが浮き彫りになった。その結果、目指す「自立する力」の構造も明らかになり、本校の教育目標の具体的なありようが見えてきた。

稔ヶ丘高校が実際に創立10周年を迎えるのは、2016（平成28）年度である。それを一つの節目としつつ、今後の長い展望をもって、不登校の生徒を救うためのこの学校の取組みがどう継承され、発展していくべきか、その将来像を先生方とともに考え続けたい。

〈謝辞〉

ここで紹介したキャリア関連科目の授業に毎週取組んでくださる稔ヶ丘高校の先生方には、本当に感謝しています。この場を借りてお礼を申し上げます。

また、稔ヶ丘高校の今までの取組みをしっかりと理解し、その上で今後の学校のあるべき姿を議論し、課題解決のためのチャレンジを支持してくださる熊谷通眞校長先生をはじめ、喜入、荒川両副校長先生にも、お礼を申し上げます。

とくに5期生の年次担任団の先生方には、たいへんお世話になりました。今年度4年次をもって解散しますが、過去にメンバーだった先生方を含めて、キャリア科目に熱心に取り組んでくださっただけでなく、生徒たちのために骨身を惜しまず協力できる、よき仲間であったことに、心から感謝の意を捧げます。

【文献】

- 池末翔太、野中祥平 2011 中高生の勉強あるある、解決します。 ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 池末翔太 2012 勉強のやる気が持続できる モチメンの教科書 高陵社書店
- 池末翔太 2014 中高生の受験スイッチを ON! にする魔法のコトバ。 エール出版社
- 木村佳世子 2007 図解NLPコーチング術 秀和システム
- 国分康孝・国分久子総編集 2004 構成的グループエンカウンター事典 図書文化
- 嶋田洋徳・菅野純・坂井秀敏・山崎茂雄 2010 人間関係スキルアップワークシート～ストレスマネジメント教育で不登校生も変わった～ 学事出版
- 独立行政法人 労働政策研究・研修機構（編著） VRT 職業レディネス・テスト 第3版
- 都立高校長期構想懇談会（答申）1997 これからの都立高校の在り方について
- 服部次郎（編著） 2004 「産業社会と人間」 実践の手引き 学事出版
- 服部次郎（編著） 2007 「産業社会と人間」—よりよき高校生活のために— 学事出版
- 堀裕嗣 2012 教室ファシリテーション 10のアイテム・100のステップ 学事出版
- 文部科学省 2011 高等学校キャリア教育の手引き
- 山崎茂雄 2011 学びに向かう意欲を育む（新聞連載）2011.9～2012.2 日本教育新聞
- 山崎茂雄 2012 自他肯定感を土壌に問題意識を高める「産業社会と人間」の授業 —「みんなちがってみんないい」を合言葉に— 都立稔ヶ丘高等学校研究紀要「勁草」第4号
- 山崎茂雄 2014 学習スキルアップワークシート～学習心理学に基づく成果の上がる勉強法～ 学事出版